

## 家屋の成聖祈祷

輔司誦

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。  
アミン。

### 常套の始め

我等の神や光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)  
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

司誦

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。  
主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

蓋国と權能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ(三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

## 第四百二十二聖詠

主よ、我が祈を聆き、爾の真実に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聴き給え。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が霊を逐い、我が生命を地に蹂り、我を久しく死せし者の如く暗に居らしむ、我が霊は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想い、凡そ爾の行いしことを考え、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向い、我が霊は渴ける地の如く爾を慕う。主よ、速に我に聴き給え、我が霊は衰えたり、爾の顔を我に隠す母れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聴かしめ給え、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給え、我が霊を爾に挙げればなり。主よ、我を我が敵より救い給え、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行うを教え給え、爾は我の神なればなり。願わくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給え、爾の義に依りて我が霊を苦難より引き出し給え、

爾の憐を以て我が敵を滅ぼし、凡そ我が霊を攻むる者を夷げ給え、我は爾の僕なればなり。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

## 重 聯 禱

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

主憐めよ。(三次) (以下每次同様)

又此の家に住まわんとする爾の諸僕婢〔某〕に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦しを賜わんが為に祈る。

又ハリストスを愛する悉くの兄弟姉妹等の為に祈る。

又此の都邑と此の家が、飢饉、疫病、地震、水害、火災、及び諸の災より防ぎ護られんが為に祈る。

司 輔 輔 輔 詠 輔 輔  
神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、

我等の罪に慈憐を垂れ、慈憐を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

アミン。

主に祈らん。

主憐めよ。

我が神救世主、ザクヘイの家に入りて彼と其全家とに救を賜いし主や、親ら今も此に住まんことを望みて、我等不当者に因りて爾に祈祷と冀願とを奉る者を諸の悩より護り、此の居處に福を降して、彼等に害わるることなく生命を渡らしめ給え、

蓋凡の光栄、尊貴、伏拝は、爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに帰す、今も何時も世世に。

アミン。

※(司祭が聖水を各部屋に灌ぐ時、左のトロパリを歌う。)

## トロパリ(第一調)

主や、爾の民を救い、爾の業に福を降せ、我が国に福を與え、爾の十字架に

て、爾の住處を護り給え。

(必要に応じて繰り返し歌う。)

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

ハリストス神我等の恃や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ(三次)。福を降せ。

ハリストス我等の真の神は、その至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

アミン。

## 幾歳も

輔 主や、今此處に立ちて祈る爾の僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壯  
健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳にも護り給え。  
詠 幾歳も。（三次）

※（司祭は、聖十字架に接吻させる時、彼（等）に聖水を灌ぎ祝福する。）